

オーラミン，ほかに時代色を付ける速成法として赤との粉，白との粉，松煙，胡粉，ベレンス青，透明のカシユー漆を使用した。なお，業界への導入については，一応の成果を得ているが，ポイントとなる変遷色の防止については，なおいくつか問題が残っており，継続して研究中である。

◎製品開発とデザイン研究

1. 住宅家具の意匠改善

鮫島正登美

低成長時代といわれる最近では，室内用家具に対する消費者ニーズの感覚志向も多様化してきたといわれる。本県でも消費者の購買意欲をそゝる製品開発が問題となっているが，小規模企業の多い本県では，多品種小量生産が適していることも以前からいわれていた。本年も「ソリッド材を多く使用した製品の意匠改善設計」と現在，森林総合整備事業の中で大きな懸案となっている除間伐の問題解決の一助として，「間伐材の利用と端尺材の利用設計」を行なった。

※ソリッド材を主としたもので

飾棚・文机・応接台・壁面用のユニットボックス等をトータルインテリアとしたもの。

※ソリッド材にスチールを取り入れた

会議室用のテーブル・机・サイドボード
・書棚等

※竹つき板化粧張りの，飾棚・応接台

※屋久島での屋久杉家具コンクール用飾棚の設計。

※間伐材と端尺材の利用設計では

(1) 杉材・ヒノキ材がほとんどである。

(2) 小径木（15cmφ以下）の芯持ち材が主である。

(3) 小節が多い。

など，材の特性を考え，割れ・曲り・材の強度など当然おこるであろうことを考慮し本年は材を丸棒として，室外のロビーか，庭園用の簡易家具を主に，＝間伐材利用作品展＝用の製品設計を行なった。

また，依頼による演台・作り付けの造作家具等の設計及び指導も行なった。

1. 内装用壁面利用収納棚の製品化について (ビルトイン装備家具)

田原 健次

本県造作家具製造業界の振興策の一つとして，標記製品開発の妥当性を関連企業間の実態調査等で把握し，その実態に即したデザイン及び試作を行ったものである。最近の急速な高層住宅の普及で標記製品の需要傾向が増えると共に指導依頼も多くなり且つ又，本研究とも時宜的に合致したことで昨年からのデザイン作業を急いでいたものである。デザイン要領として次の諸点を考慮し具体化を図った。

① デザイン指針の確立…収納棚として，7種のタイプ（高サ寸法一定，間口フリーサイズ）を基本に組み合わせの多様性に重点をおき部屋別に機能性の高められるもの。

② 構造…ユニットの実例研究。

③ 低品質品の排除を目指す品質管理法。

④ ユニット部材の在庫管理法…これがもたらす現場取付け作業性の向上等，以上であるが来年度はこの試作結果を踏えて標記製品開発の指導効果を更に高めたい。